

**ISO14001:2015**

**「環境マニュアル」作成の手引き**

SAMMY ✓

株式会社ハピネックス

## 4.組織の状況

規格要求事項	環境マニュアル例
<p>4.1 組織及びその状況の理解</p> <p>組織は、組織の目的に関連し、かつ、その環境マネジメントシステムの意図した成果を達成する組織の能力に影響を与える、外部及び内部の課題を決定しなければならない。こうした課題には、組織から影響を受ける又は組織に影響を与える可能性がある環境状態を含めなければならない。</p>	<p>4.1 組織及びその状況の理解</p> <p>環境管理責任者は、当社の目的に関連し、かつ、その環境マネジメントシステムの意図した成果を達成する当社の能力に影響を与える、外部及び内部の課題を決定します。こうした課題には、当社から影響を受ける又は当社に影響を与える可能性がある環境状態を含めます。</p> <p>外部及び内部の課題は、毎年3月に社長、環境管理責任者及び環境管理委員会で検討し、その結果を、「組織の状況及びリスクと機会の検討表」に記録します。</p>
<p>環境マニュアル作成のポイント</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規の要求事項です。</li> <li>■ ISO14001 の意図した成果とは、             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境パフォーマンスの向上</li> <li>② 順守義務を満たすこと</li> <li>③ 環境目標の達成</li> </ul>             を意味しています。           </li> <li>■ こうした成果を達成する上で、影響を与える内部・外部の課題を理解整理することを求めています。</li> <li>■ 課題と言うと、「解決すべき問題点」と捉えがちですが、規格の意図はマイナス面だけを捉えていません。したがって、「課題」というより、「現在の状況」と捉えた方がよいと思われます。「現在、会社の状況は～である」という意味合いです。</li> <li>■ 文書化は要求されていませんが、マネジメントレビューのインプット項目となっていますので、何らかの形で文書化した方がよいと考えられます。</li> <li>■ 環境マニュアル例では、主語を「環境管理責任者は～」としています。会社の実状に合わせてください。ISO 事務局でも社長でも構いません。</li> <li>■ 外部の課題(状況)は、以下のような切り口から整理しましょう。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令…(例) 規制緩和された、法律の規制が厳しくなった</li> <li>・顧客…(例) 大口顧客との取引が拡大(減少)</li> <li>・競争…(例) 他社との競争が厳しくなった、競合他社が新製品を発表した</li> <li>・下請先…(例) 下請先の技術力が低下している、技術力のある下請先と取引がある</li> <li>・市場…(例) 低価格化が進んでいる、市場が拡大中である、市場が縮小している、市場では〇〇機能がついた商品が流行っている</li> </ul> </li> <li>■ 内部の課題(状況)は、以下のような切り口から整理しましょう。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織…(例) 幹部社員が育っておらず、組織力として弱い</li> <li>・人的資源…(例) 若手社員が多い(少ない)、若手社員が育っていない、ベテラン社員が多い(少ない)、ベテラン社員の大半が定年を迎える、環境に関する意識が低い(高い)、人手不足(人員過剰)、後継者がいる(いない)</li> <li>・技術…(例) 他社に負けない環境技術がある</li> <li>・設備…(例) 老朽化が進んでいる、最新設備を導入した</li> </ul> </li> <li>■ 財務…(例) 財務的余裕がない(ある)</li> </ul>	